

自然に抱かれ、奏であう「河岸の石庭」

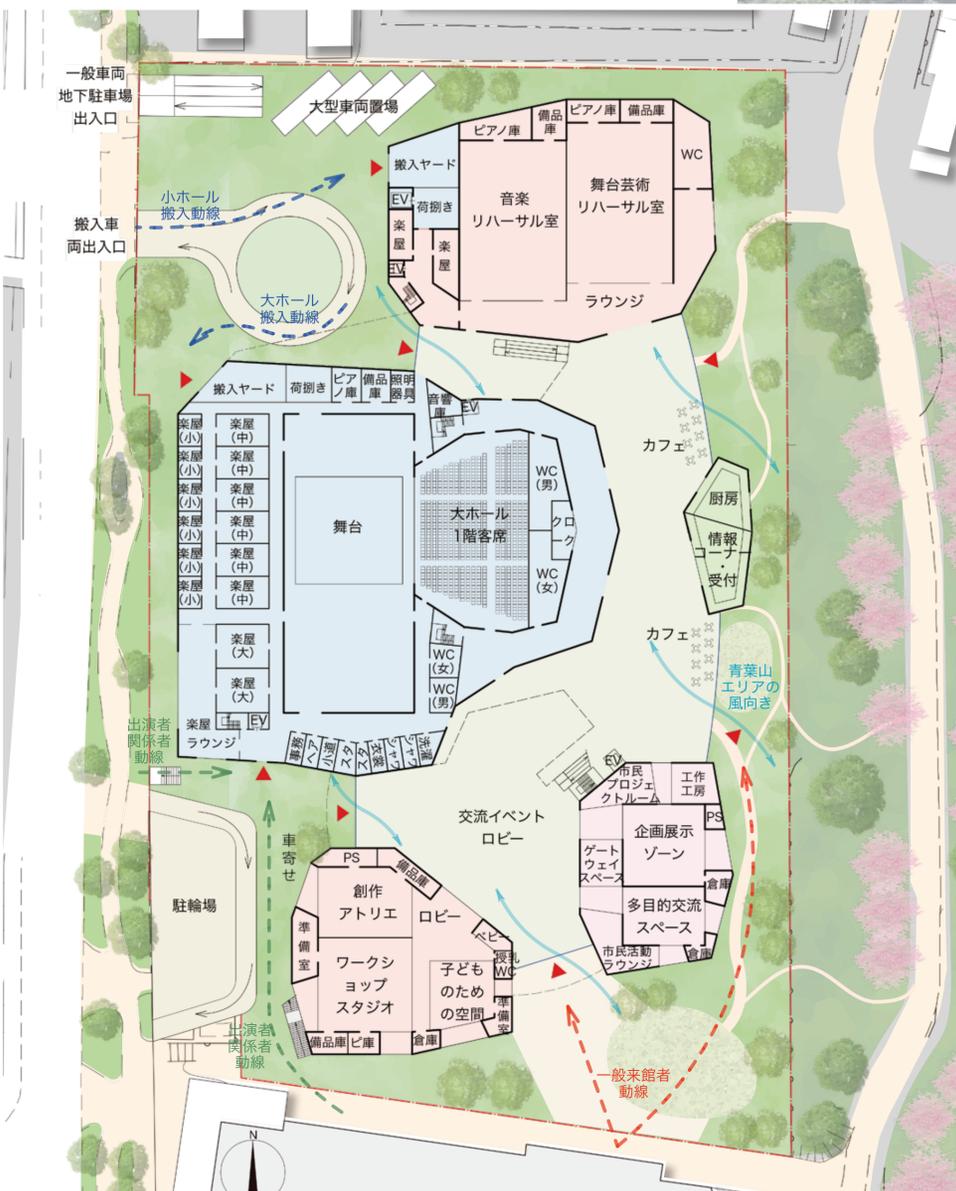
広瀬川は長い時間をかけて丘陵を削り、仙台の街の礎となる台地を形成してきました。自然の大きな力に抱かれたこの場所で、文化芸術と災害文化の融合のあり方をみなで奏であう場として、河岸の石庭を提案します。

設計理念

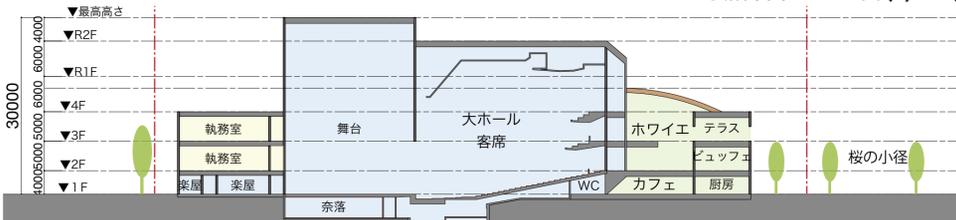
- 1 青葉山の自然に寄り添い文化の流れをつくる
- 2 青葉山エリアの風景に呼応するランドスケープ
- 3 多様な価値観を育む多中心な環境
- 4 だれもが安心して集うことができる柔らかく閉じた場所
- 5 光と陰の空間、音と静寂の空間
- 6 芸術と記憶の響き合い



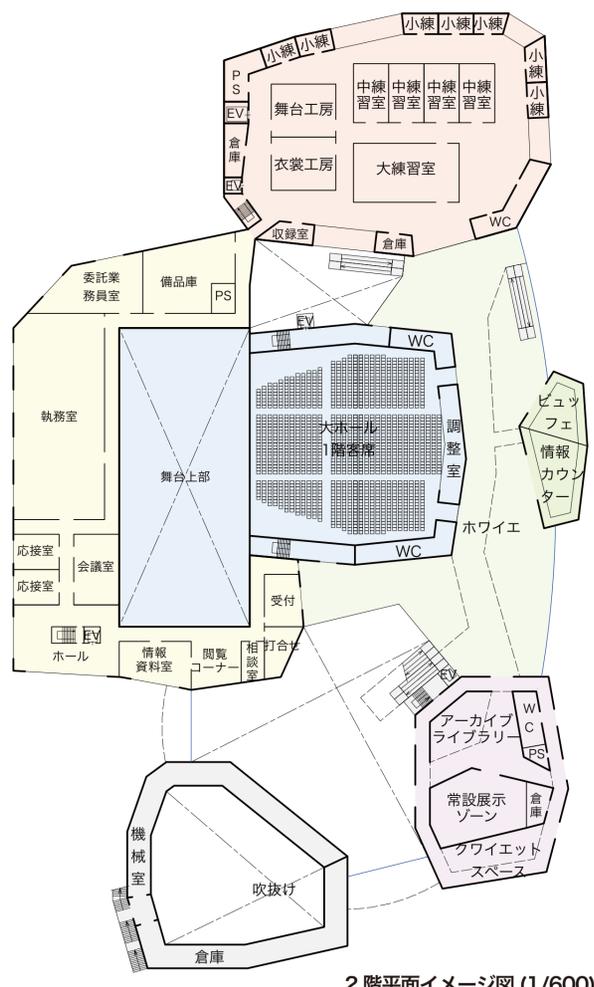
仲の瀬橋から望む：青葉山を背景に河岸に転がった石の様な佇まいで、文化融合の音を奏でる。交流ロビーゾーンから中心メモリアル拠点を見望む：入れ子になった大きなボリュームの窓越しに災害文化活動が垣間見える



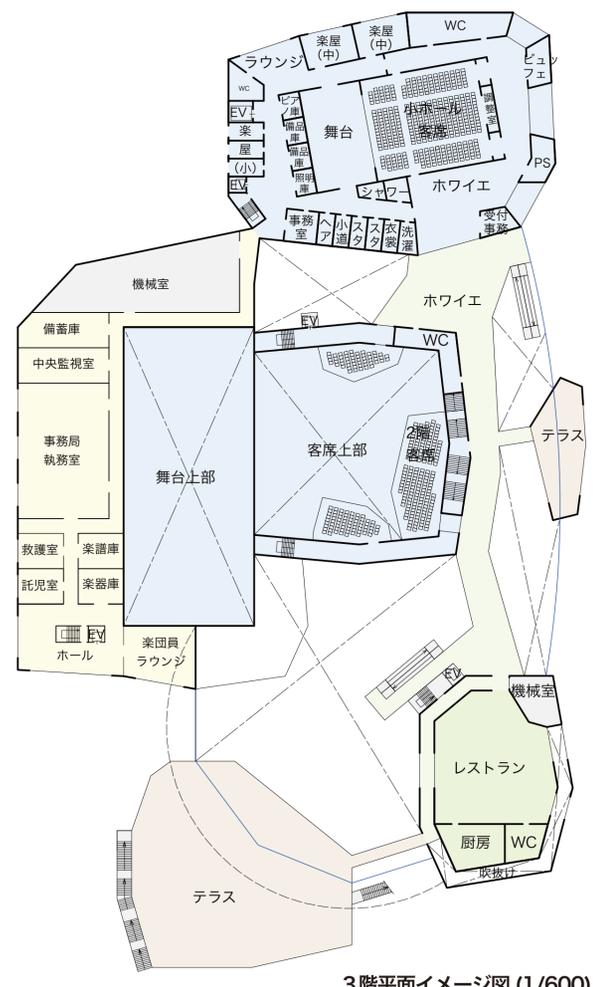
主要階平面イメージ図 (1/600)



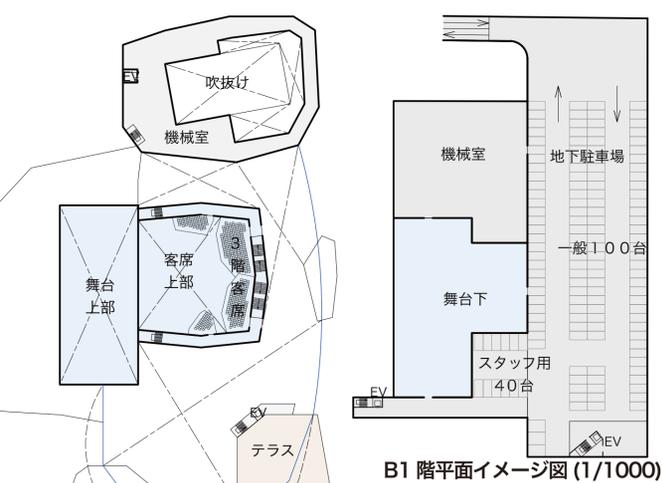
断面イメージ図 (1/600)



2階平面イメージ図 (1/600)



3階平面イメージ図 (1/600)

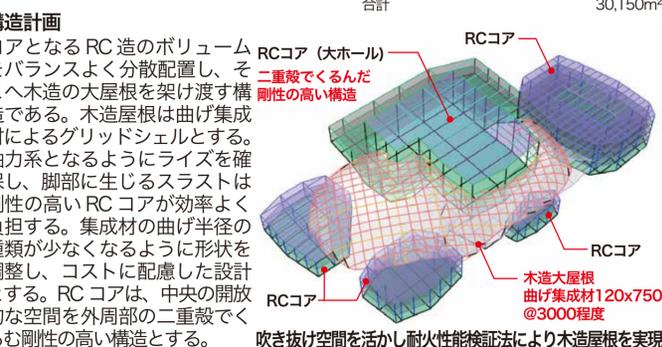


4階平面イメージ図 (1/1000)

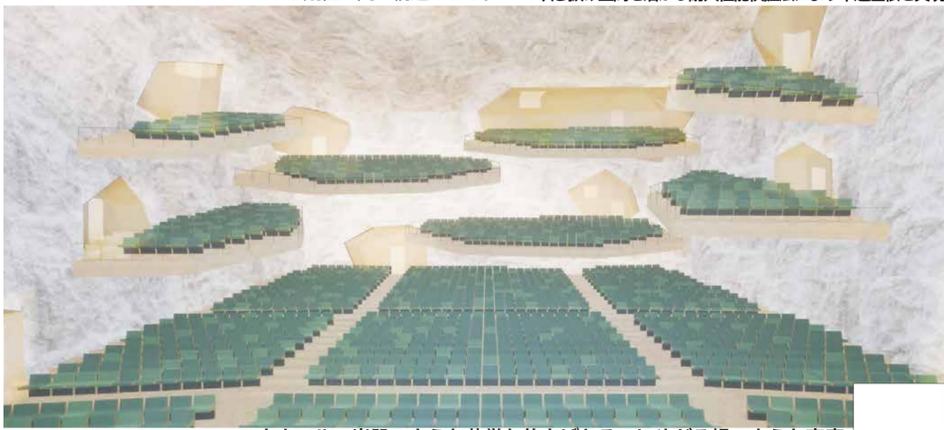
B1 階平面イメージ図 (1/1000)

面積表

ホールエリア	10,030m ²
文化芸術創造支援活用エリア	4,850m ²
災害文化創造支援・発信エリア	1,600m ²
運営エリア	3,220m ²
広場エリア (共用部を含む)	6,200m ²
その他 (機械室・共用部等)	4,250m ²
地下駐車場	5,000m ²
合計	30,150m ²



クワイエットスペース：線形の空間とし奥に行くほど光に満たされた静寂な空間となる。



大ホール：岩肌のような荘厳な仕上げとそこにやどる緑のような客席。